

# 神奈川県

定数：15名

立候補者数：13名



氏名 中田 周兵  
氏名ふりがな なかた しゅうへい  
都道府県士会 神奈川県  
年齢 40  
勤務先名称 湘南鎌倉総合病院

### 日本理学療法協会活動歴

2024～26年 日本理学療法士協会 代議員

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2020～22年 神奈川県理学療法士会 社会局 健康増進部 部長  
2022～23年 神奈川県理学療法士会 スポーツ局 スポーツイベント支援部 部長  
2023～25年 神奈川県理学療法士会 理事  
2025～ 神奈川県理学療法士会 常任理事（スポーツ局長）  
2025～ 第45回関東甲信越ブロック理学療法士学会 渉外局長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

日本理学療法士協会（以下、PT協会）の中長期計画において、「質の高い人材の確保」および「スポーツ領域への寄与」が重要な柱として位置づけられています。

私たち神奈川県理学療法士会においても、「スポーツ理学療法士人材育成講習会」や「臨床認定カリキュラム（スポーツ理学療法）」を継続的に開催し、質の高いスポーツ理学療法を実践できる人材の育成に取り組んできました。

とりわけ「臨床認定カリキュラム（スポーツ理学療法）」については、現行の生涯学習制度開始当初より継続して運営し、「講師の質の確保」と「対面講義の重視」を軸に、実践力を重視したカリキュラムを構築してきました。

こうした運営を通じて、生涯学習制度の在り方や運営方法は、教育機関や地域の状況に応じて多様であり、それぞれが創意工夫を重ねている現状を実感しています。

一方で、参加者確保の工夫や講義形態の選択、講師体制の構築といった点については、制度全体としての連携や支援をさらに検討することで、より安定的かつ魅力的な教育環境を整えられる余地があると感じています。生涯学習制度を持続可能なものとし認定理学療法士の質を担保しながら、会員一人ひとりの成長につながる制度へと発展させるためには、現場で蓄積された実践的な知見や課題を、PT協会に直接届けていくことが不可欠であると考えようになりました。

こうした課題意識のもと、現場と制度をつなぐ役割を担い、対面・オンラインを含めた講義形態の最適設計や、各地域で培われてきた工夫・ノウハウの集約と共有などを通じてより実効性の高い生涯学習制度の構築に寄与したいと考え、このたび立候補いたします。



氏名 鈴川 仁人  
氏名ふりがな すずかわ まこと  
都道府県士会 神奈川県  
年齢 50  
勤務先名称 横浜市スポーツ医科学センター

### 日本理学療法協会活動歴

2017～2019年	日本理学療法士協会スポーツ支援推進執行委員会小委員会	委員
2017～2020年	日本スポーツ理学療法学会	運営幹事
2019年12月	第6回日本スポーツ理学療法学会学術大会	準備委員長
2019～現在		代議員
2023～現在	日本理学療法士協会スポーツ理学療法業務推進部会	部会長

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2005～2018年	神奈川県理学療法士会社会局スポーツ支援部	部員
2016～2020年	神奈川県理学療法士会東京オリ・パラ準備委員会	委員長
2019～2020年	神奈川県理学療法士会	理事
2021～2022年	神奈川県理学療法士会	常任理事
2023～現在	神奈川県理学療法士会	副会長
2024～現在	第45回関東甲信越ブロック理学療法士学会	準備委員長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021～現在	一般社団法人日本スポーツ理学療法学会	副理事長
2021年11月	第8回日本スポーツ理学療法学会学術大会	準備委員長
2024年1月	第10回日本スポーツ理学療法学会学術大会	副大会長
2025年1月	第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会	大会長

### 立候補の趣旨

少子高齢化の進行やスポーツを取り巻く環境の変化により、競技力向上のみならず、健康増進、障害予防、地域づくりといった幅広い分野において、理学療法士の専門性が求められている。とりわけスポーツ理学療法は、医療とスポーツをつなぐ実践的な専門領域として、国や自治体、関係団体との連携を通じた社会的貢献が一層重要となっている。こうした中、本会では組織的な取り組みが進み、スポーツ庁との連携のもと、現場の知見を国の施策や事業へと反映させる動きが着実に進展している。

私は、現場で培われた経験と士会の声を本会の活動に的確に反映させるとともに、全国の理学療法士がスポーツ分野で安心して専門性を発揮できる環境づくりに尽力し、国民の健康とスポーツ文化の発展に貢献したいと考えている。



氏名 杉山 さおり  
氏名ふりがな すぎやま さおり  
都道府県士会 神奈川県  
年齢 55  
勤務先名称 Good Posture

#### 日本理学療法協会活動歴

活動歴なし

#### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成24年度～ 現ライフサポート部部員として活動

#### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

令和元年～令和6年 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会理事

#### 立候補の趣旨

1997年に理学療法士免許を取得し、地域リハビリテーション、訪問リハビリテーションを経て、現在はウィメンズヘルス理学療法、小児の訪問リハビリテーションに携わっています。  
2013年からフリーランスの形で地域で活動する中で、産前産後の理学療法のみならず、小児の訪問リハビリテーション、一次予防としての健康維持のための支援も理学療法士の重要な役割であると感じています。  
また医療機関を離れ、地域に出た時に、理学療法士の認知度はまだまだ低く、医療の中でさえも直接関わりのない診療科の医師が理学療法士の存在や役割について理解されていないということも散見されます。  
養成校が増え、理学療法士の人数が増える中で、どのように社会的な立場を確立していくかは、大きな課題であると考えます。  
日本理学療法士協会では、理学療法士の地位向上に向けての取り組みを進めていますが、そのためには、理学療法士の質を担保し、理学療法士がどのようにニーズに応え、社会的な意義を高めていくかが重要であると考えます。  
代議員として、日本理学療法士協会の中枢の動きを知り、神奈川県下に還元できるように、中枢と地域を直接つなぐ役割を果たしたいと思っております。



氏名 相馬 光一  
氏名ふりがな そうま こういち  
都道府県士会 神奈川県  
年齢 58  
勤務先名称 神奈川リハビリテーション病院

#### 日本理学療法協会活動歴

2016年～：代議員

#### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2006年～2015年：公益事業推進部長  
2015年～：理事（現在、常任理事・職能局長）

#### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

2025年～：日本支援工学理学療法学会評議員

#### 立候補の趣旨

このたび、日本理学療法士協会代議員に立候補いたしました相馬光一です。現在、職能局長として協会と協調しながら士会活動に取り組んでおります。理学療法士が活躍する場は、医療・介護分野にとどまらず、地域包括ケア、予防、産業、教育、スポーツなど多岐にわたっています。臨床で培った専門性を基盤に、理学療法士が幅広い分野で活躍できる環境を整えることは、若手理学療法士の将来の選択肢を広げることにもつながります。

私は、理学療法士の専門性は日々の臨床実践によって培われ、社会から信頼される療法士へと成長していくものだと実感してきました。若手理学療法士の育成は、理学療法士の将来を支える重要な課題であると考えています。臨床の忙しさの中で教育に十分な時間を割くことが難しく、若手が成長の道筋を描きにくい現状も見受けられます。若手が安心して臨床に取り組み、専門職としてのやりがいや将来像を持てる環境づくりは、結果として現場全体の質の向上に直結します。

私は、臨床現場の充実、若手育成、そして理学療法士の活躍の場の拡大を切り離すことなく、相互に支え合う課題として捉え、世代や立場をつなぐ代議員としての役割を果たしてまいります。

皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



氏名 西田 友紀子  
氏名ふりがな にしだ ゆきこ  
都道府県士会 神奈川県  
年齢 47  
勤務先名称 横浜市立みなと赤十字病院

### 日本理学療法協会活動歴

2024年～現在 日本理学療法士協会 代議員

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2014年～ 神奈川県理学療法士会 生涯学習部員  
2023年～ 神奈川県理学療法士会 理事  
2024年～ 第45回関東甲信越ブロック理学療法士学会 準備委員会広報局長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

私は2007年より現在まで急性期病院に勤務し、臨床現場において理学療法士としての役割を果たしてまいりました。子育てをしながら急性期病院に勤務する中で、仕事と家庭の両立の難しさを実感するとともに、理学療法士が安心して働き続けられる環境づくりの必要性を強く感じてきました。

2023年度より神奈川県理学療法士会理事として県士会活動に携わり、ライフサポート部および広報部の業務を通じて、会員にとって有益となる事業の企画・開催や、理学療法に関する情報発信に取り組んできました。現場の声をくみ取り、調整し、分かりやすく伝えるという経験は、協会と会員をつなぐ上で重要な力になると考えています。また、1期目の代議員活動として協会理事会を傍聴する中で、協会の組織構造や意思決定の流れがようやく見え始めました。代議員は、理事会での議論を理解したうえで、総会という正式な場において現場の意見を協会へ届けられる、限られた役割を担っています。

2期目では、これまでの臨床経験や県士会理事として培ってきた調整力・発信力を生かし、協会運営をより深く見つめながら、理事会の議論を踏まえた現実的な意見を現場から協会へ伝えていきたいと考えています。引き続き、理学療法士が専門職として誇りを持ち、安心して働き続けられる環境づくりに貢献できるよう尽力してまいります。

皆さまのご理解とご支援を、よろしくお願い申し上げます。



氏名 石田 輝樹

氏名ふりがな いしだてるき

都道府県士会 神奈川県

年齢 43

勤務先名称 (株)リカバリータイムズ

### 日本理学療法協会活動歴

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

令和5年～現在 神奈川県理学療法士会 理事  
令和5年～現在 神奈川県理学療法士会 地域支援局

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

医療・介護・地域の課題が多様化する中で、理学療法士に求められる役割は確実に広がっています。その中で現場では「協会に入る意味が見えない」「協会は職域を守れているのか」といった不安の声も一定数あります。

その背景の1つには、協会の活動や方針が十分に現場へ届いていないという課題があるのではないかと感じています。何を目指し、なぜ取り組み、どのように意思決定しているのか。主体的に関わらなければ見えないことが多く、多様化したニーズの中での理解や納得が生まれにくい現状があるのではないかと考えています。

一方で、社会からの期待は確実に高まっています。実際に私が関わった行政職員の方々から、「理学療法士には、もっとお願いしたいことがたくさんあります」との声をいただいています。私たちの専門性は、地域の中でもまだまだ必要とされています。

また神奈川県医療専門職連合会においても、災害や有事に備えるためには、平時から職種を超えて連携しておくことの重要性が強く問われています。いざという時に力を発揮するためには、日常からの結束と仕組みづくりが欠かせません。

だからこそ私は、代議員として協会の方針を深く理解し、現場で働く仲間にも正しく伝え、連携できる「橋渡し役」をしたいと考えています。総会での議論と決定が納得ある議決となるよう、現場感覚と責任感を持って発言していきます。

理学療法士の社会的評価をより高め、実行していき、職業としての未来を守るためには、協会と会員が一致団結できる土台が必須です。協会の対外的な連携や広報、会費の適切な運用にも注視し、より良い活動につながる提案をします。

理学療法士の未来をよりよくするために、現場からの声を上げていきます。よろしく願いいたします。



氏名 藤井 伸行  
氏名ふりがな ふじい のぶゆき  
都道府県士会 神奈川県  
年齢 42  
勤務先名称 三浦市立病院

### 日本理学療法協会活動歴

2024年～ 日本理学療法士協会 代議員

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2012年～ 新人教育部（前 生涯学習部）部員  
2016年～ 横須賀・三浦ブロック 三浦市 市町村代表  
2023年～ 事務局総務部・横須賀三浦ブロック担当理事

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

この度、代議員に立候補させていただく藤井伸行と申します。  
現在、神奈川県理学療法士会では事務局総務部・横須賀三浦ブロック担当理事を務めさせていただいております。  
私は、臨床現場だけではなく地域・ブロック内や職場以外での他職種も含めた研鑽・交流の場があることの重要性や効果を日々感じています。  
2024年より代議員として活動させていただいておりますが、協会と県士会会員の皆様との橋渡しとして、県士会理事としての活動も協会や全国の状況を踏まえた形で取り組んでいると感じています。今後も会員の皆様が所属施設や地域内で理学療法士として求められる役割を發揮していけるよう、尽力していきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。



氏名 下田 栄次

氏名ふりがな しもだ えいじ

都道府県士会 神奈川県

年齢 47

勤務先名称 湘南医療大学

### 日本理学療法協会活動歴

平成27年6月～平成29年6月 将来構想戦略会議 災害対策本部部員  
平成30年4月～代議員  
令和6年6月～災害対策・支援マニュアル作成ワーキングチーム委員

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成25年11月～（公社）神奈川県理学療法士会 災害対策委員会 委員  
平成28年6月～ 同委員会 委員長  
令和4年6月～ 事務局 災害対策部 部長  
令和5年6月～ 事務局 災害対策担当理事  
平成26年4月～令和5年6月 公益事業推進部 部員  
平成27年4月～平成28年3月 第33回神奈川県理学療法士学会 学術係 係長  
平成30年4月～令和4年3月 ニュース編集部 部員  
平成31年4月～令和2年11月 第37回神奈川県理学療法士学会 総務係 係長  
令和6年12月～ 第45回関東甲信越ブロック理学療法士学会 事務局 事務局長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

令和6年12月～日本地域理学療法学会 選挙管理委員会委員

### 立候補の趣旨

神奈川県理学療法士会では平時からの災害対策と人材育成を目的として災害対策委員会（現：災害対策部）が設置されました。私は、準備段階から関わり、現在は災害対策担当理事・部長として、災害対策研修会や災害対策キャラバンを通じ、実践に結びつく災害リハビリテーション支援体制の構築に取り組んでいます。  
令和6年能登半島地震では、要配慮者支援や福祉サービスの提供体制が大きな課題となり、災害救助法に理学療法士が明記されるなど、災害時における私たちの社会的責任は確実に拡大しています。私は協会の災害対策・支援マニュアル作成にも携わり、現場と制度の双方をみてきました。今こそ、協会と県士会が一体となり、災害時に「確実に機能する」支援ネットワークを構築していく必要があります。理学療法士の力を社会に還元するため、代議員に立候補いたします。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



氏名 渡邊 裕之  
氏名ふりがな わたなべ ひろゆき  
都道府県士会 神奈川県  
年齢 60  
勤務先名称 北里大学医療衛生学部

### 日本理学療法協会活動歴

2011年：東日本災害リハビリテーション支援事業 第1次派遣団に参加

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2015年：神奈川県理学療法士会 理事（2022年まで）  
2019年：神奈川県理学療法士会 副会長（2022年まで）  
2025年：神奈川県理学療法士会 理事 事務局長（現在に至る）

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

2019年：第6回日本スポーツ理学療法学会大会 大会長  
2021年：日本スポーツ理学療法学会理事（現在に至る）

### 立候補の趣旨

理学療法士を取り巻く環境は、年々厳しさを増していると感じています。物価高に対する給与水準の伸びや社会的評価は十分とは言えず、その結果、本来の専門であるリハビリテーションの現場を離れざるを得ない方も少なくありません。このような状況は、理学療法士という国家資格の将来にとっても大きな課題であると考えます。

待遇改善には診療報酬が大きく関わっており、医療財源に限られる中でその維持・向上は容易ではありません。だからこそ、協会からの発信とともに、会員一人ひとりが問題意識を共有し、声を届けていくことが重要だと考えています。

一方で、理学療法士は地域や社会に貢献しようとする高い職業意識を持つ方が多く、その姿勢は本職の大きな魅力です。この専門性と価値を、より適切に社会へ伝えていく必要があります。

私は、会員の皆さまの声に耳を傾けながら、代議員として協会と会員をつなぐ役割を果たし、理学療法士が安心して働き続けられる環境づくりに微力ながら取り組んでいきたいと考えております。



氏名 木村 充広  
氏名ふりがな きむら みつひろ  
都道府県士会 神奈川県  
年齢 54  
勤務先名称 横須賀共済病院

### 日本理学療法協会活動歴

2020年度～2021年度 補欠代議員  
2022年度～2023年度 代議員  
2024年度～2025年度 代議員

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2012年～2014年 生涯学習部 部長  
2014年～2022年 新人教育部 部長  
2021年～2024年 理事学術局 副局長  
2024年～ 常任理事 学術局長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

この度、日本理学療法士協会代議員へ立候補いたしました木村充広と申します。本会では生涯学習部と新人教育部で部長として、その後は理事として学術局の運営に携わらせていただいております。みなさんの職場では生涯学習制度がしっかり理解され、登録や認定、専門といった資格の取得や更新は闊達になされていますでしょうか。2022年の制度開始以降、制度の煩雑さや維持の難しさ、また取得によるメリットについてなど、さまざまなお意見をいただいております。私は資格の取得や保持がある程度困難であっても、相応の「メリット」を有していれば卒後教育の「道標」として機能すると考えております。また、組織を上げた生涯学習制度の構築は職能団体として当然の施策であると考えております。この数年さまざまな議場で、時に他士会担当者と共働しながら皆様の意見を直接協会担当者へ訴え続けてまいりました。その結果、限定的ではありますが2025年より緩和策が盛り込まれた改訂が実行されました。本制度は2027年度まで段階的な見直しを経て、2029年には抜本的な改訂となることがすでに発表されています。2029年に一新される生涯学習制度がより会員にとって有益かつ理学療法士の信頼に寄与する制度となるよう引き続き本会の代表として尽力したいと考えております。会員の皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



氏名 淵橋 潤也  
氏名ふりがな ふちはし じゅんや  
都道府県士会 神奈川県  
年齢 46  
勤務先名称 横浜リハビリテーション専門学校

### 日本理学療法協会活動歴

2020年～日本理学療法士協会 代議員

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2019年 第36回神奈川県理学療法士学会 副学会長兼準備委員長  
2021年～神奈川県理学療法士会 理事  
2024年～組織強化検討委員会 委員長  
2025年～第45回関東甲信越ブロック理学療法士学会 運営局長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

神奈川県理学療法士会の理事として、県学会の運営や、行政と連携した次世代育成事業の推進に奔走してまいりました。これらの事業を通じ、理学療法士が社会から求められる存在であり続けるためには、対外的な発信力の強化と、組織としての結束力が不可欠であると再認識いたしました。

現在、本協会は組織率の低下という重大な局面に直面しています。組織力の弱体化は、職能団体としての発言力低下に直結する危機的課題です。この現状を打破するためには、既存会員がメリットを実感できる魅力ある組織づくりと、未入会者が「参加したい」と思えるような社会的価値の創出が急務です。

私は、教育現場で培った視点と、県士会での行政・組織運営の実践知を活かし、現場の切実な声を協会施策へ確実に反映させる「パイプ役」を担います。組織率の回復と、全会員が誇りを持って活躍できる職域開拓を実現するため、全力を尽くす所存です。



氏名 玉井 洋平  
氏名ふりがな たまい ようへい  
都道府県士会 神奈川県  
年齢 45  
勤務先名称 横浜新緑総合病院

## 日本理学療法協会活動歴

## 都道府県理学療法士（協）会活動歴

政策対策部（前身の地位向上委員会より2015～現在）  
ライフサポート部（2024～現在）  
横浜北部ブロック内緑区代表（2025～現在）

## 学会連合及び同連合会員団体活動歴

## 立候補の趣旨

「一生懸命に技術を磨く私たちの将来に希望を持てる職能団体でありたい」これが、私の立候補の原動力です。私は理学療法科科长としてマネジメントに携わる一方、臨床家としてAKA-博田法や認知神経リハビリテーションを用い、日々患者と向き合っています。病院勤務以外に、訪問看護ステーションへの出向や院内からも訪問リハ部門を立ち上げ、訪問看護ステーションの理学療法士との違いを意図して行ってきました。また震災時の災害支援や、横浜市緑区の代表としての行政委託事業を通じ、理学療法士がいかに社会から必要とされているかを肌で感じてきました。さらに現場の努力だけでは変えられない壁として「処遇」と「社会的地位」については、協会と両輪で動いている連盟の活動をしています。日本理学療法士連盟の青年局員、神奈川県理学療法士連盟の広報局長として政治がいかに私たちの生活に直結しているかを伝えてきました。臨床・地域行政・連盟この3つの異なる視点を持つ私だからこそ、現場の頑張りが正当に評価される「仕組み作り」の後押しを援助できるのではないかと考えております。代議員として、特にこれからの時代を担う若手世代と共に「協会は自分たちのためにある」「協会に所属してよかった」と実感できるよう、現場の理学療法士に還元できるものを考え、将来の私たちの事を考えた行動をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



氏名 河端 将司  
氏名ふりがな かわばた まさし  
都道府県士会 神奈川県  
年齢 42  
勤務先名称 北里大学医療衛生学部

### 日本理学療法協会活動歴

2024年～現在 日本理学療法協会 代議員

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2020年～2022年 神奈川県理学療法士会, スポーツ支援部 部員  
2022年～現在 神奈川県理学療法士会, スポーツ局 局員

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年～2024年 日本スポーツ理学療法学会, ガイドライン委員会委員  
2023年～現在 日本スポーツ理学療法学会, 特別委員会（理学療法士の超音波画像診断装置使用に関する検討委員会）委員  
2024年～現在 日本スポーツ理学療法学会, 研究推進委員会委員

### 立候補の趣旨

「理学療法士が活躍し、社会的に評価される」——この理想と現実のギャップに落胆せず、力強く次の一步を踏み出したい。そんな次世代の理学療法士が増えることを切望しています。気概あふれる若い理学療法士が未来を切り拓き、世代や職種を超えた協働が最大の成果を生むと信じています。理学療法の実力と可能性を可視化し、社会へ発信し続ける不断の努力が今こそ求められています。私は理学療法の実践者として、研究・教育者として、士会と協会を通じ社会に貢献したいと考え、立候補を決意しました。

少子高齢化社会において、理学療法士が国民の福祉と健康にどのように貢献できるか、また人口動態に反比例して増加する理学療法士が社会で活躍するための課題は山積しています。子どもの健全な成長、健康寿命の延伸、競技スポーツや生涯スポーツの支援など活躍の場は広がる一方、社会的評価とのギャップも痛感しています。

私はスポーツ傷害や運動器疾患の急性期・慢性期理学療法に従事してきました。近年、超音波（エコー）は医師と理学療法士の重要な情報共有ツールとなっています。課題は残るものの、その活用は理学療法士にとって大きな変革の機会です。先人の技と知識を可視化し、医師や国民から信頼を得る手段にもなります。臨床と学術の双方をアップデートし、既存と刷新のバランスを大切にしながら、多くの理学療法士の一步につながる活動に尽力してまいります。